



# いいはなプロジェクト活動紹介

## 大久保金一氏とのまでいな花園デザイン

～花仙人と作る”花咲く”飯館村～

### プロジェクトメンバー

東京大学院農学生命科学科農学国際専攻

教授 溝口勝

修士2年

相子大海

上田大晃

風見奈穂子

小林英樹

佐藤瑞基

濱谷美里

細江真優

# 01 プロジェクトの背景と課題

### #背景

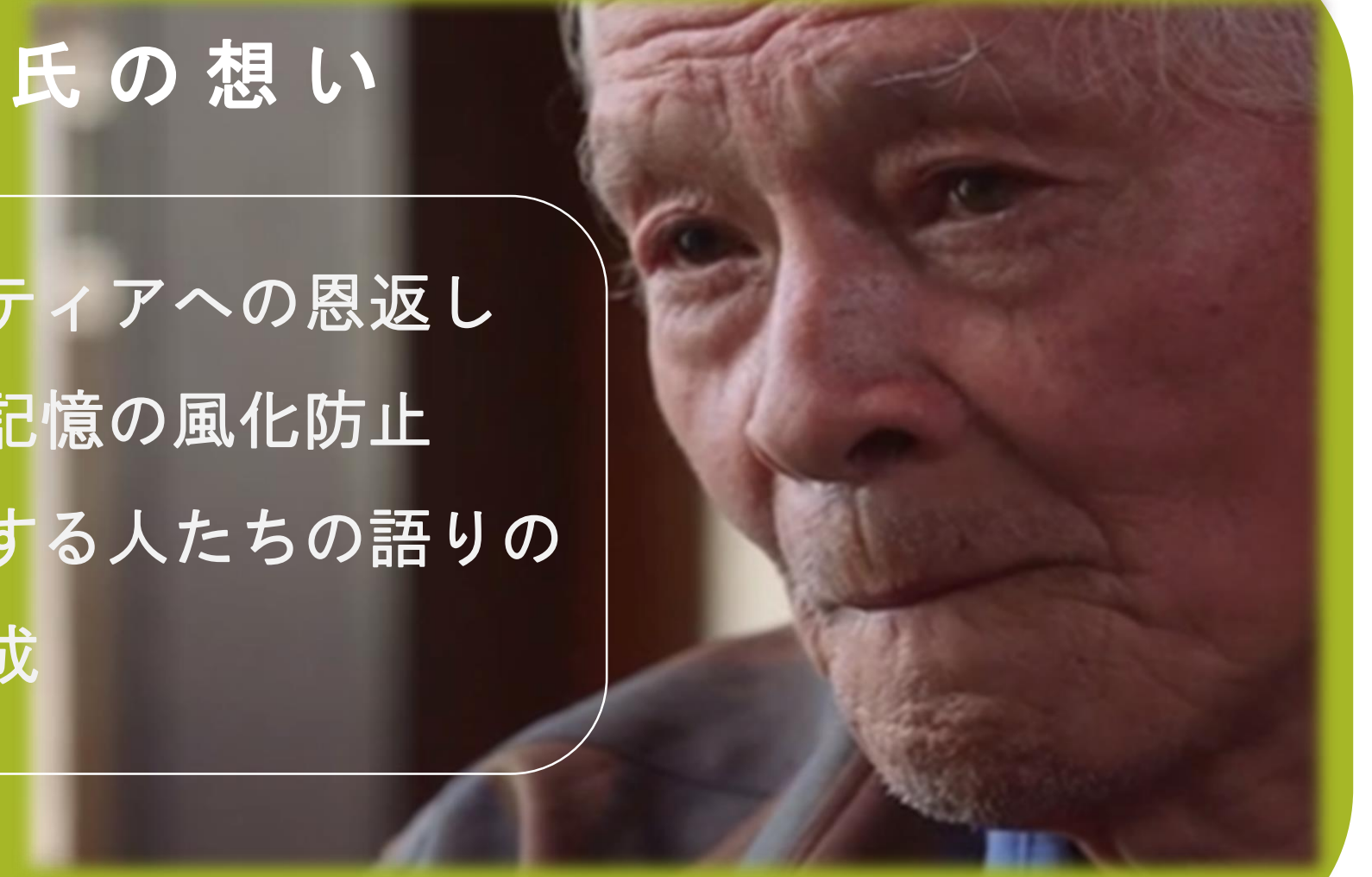
2011年3月11日の東日本大震災による影響で飯館村では全村避難が行われた。しかし村民である本プロジェクトの最重要人物、大久保金一氏は失意の念に打ちひしがれながらも再興を願う強い精神力で土地を取り戻す戦いを続けていた。その最中に会ったボランティアとの協働をきっかけに大久保氏の想いを具現化するプロジェクトが始まった。それが「マキバノハナゾノ計画」である。右記の3つの想いを、満開の花を咲かせ、数十年後も皆が集まれる場所をつくることで実現したいと考えていた。

### #課題

大久保氏の想いを実現させるためにはいくつかの課題が存在した。  
①想いを実現するための花園のアイデアの不足  
②立地が悪い中で花園に集客する仕組みの欠落  
③遠隔地でも花園の様子を発信する仕組みの欠落  
④花園の管理人材の不足  
したがって、「マキバノハナゾノ計画」における以上の課題に対するソリューションとして、私たちの取り組みを紹介する。

### 大久保氏の想い

- ①ボランティアへの恩返し
- ②震災の記憶の風化防止
- ③花を愛する人たちの語り場の造成



# 02 施策① いいたて花壇の作成

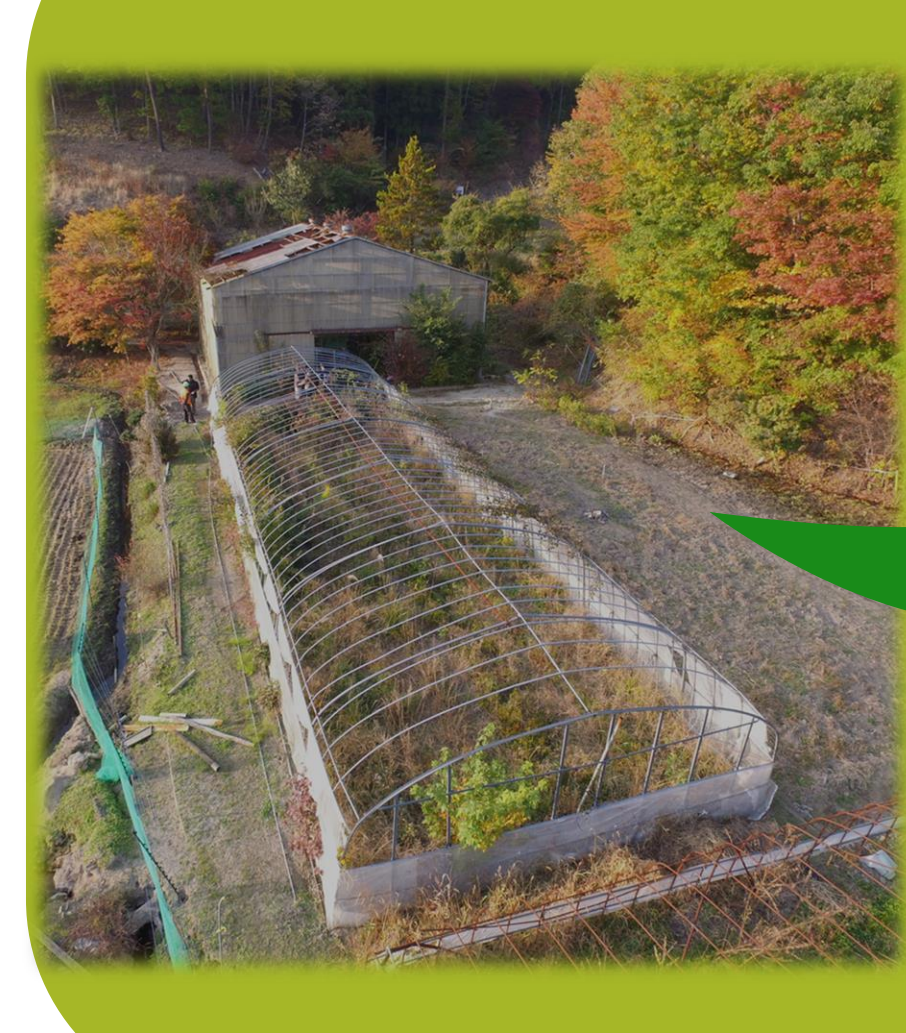
### #いいたて花壇

上記の想いの実現に際し、大久保氏には具体的なアイデアが不足していた。その為我々が土地のデザインを提案・取捨選択する中で、共に造り上げる事になったものが飯館村を模った「いいたて花壇」である。狙いとしては、①「花咲く村いいたて」を皆で作る復興になぞらえる事、②来訪経験者が再訪した時に花壇を見ることで当時の記憶や経験を懐かしみ、より綺麗になりながらも温かさを残した花壇を見て嬉しさを感じてもらおう、を設定した。

### #花壇概要

輪郭部はスイセンで囲まれ、内部は20の行政区にわけて、各行政区に5本ずつバラが植えられている。また飯館村を東西に走る県道12号線・南北に走る国道399号線をイメージした道が花壇内部に作られており、一目で飯館村を思い起こさせる。夜には輪郭と行政区の境目に配置した2,150個のソーラー式イルミネーションが飯館村を彩りかび上げらせ、幻想的な空間を演出している。また、この花壇を造るにあたり、総勢40名程が参加したイベントを開催した。

2015年12月



2017年3月



# 03 施策② 双方向性のある情報発信

### #情報発信

我々は、大久保氏の強い想い、花園の美しさに心を惹かれる一方で、その魅力を発信する手段の少なさを課題に感じていた。また、遠方から訪れるボランティアの方々と、その後も継続的につながりを保てる工夫も必要だと感じていた。そこで、以下のような情報発信の仕組みを提案し、実行した。

#### ①ホームページ

花園に関する情報を集積し、不特定多数の方に情報を届けられる。

#### ②Facebookページ

花園を知らない人に対して能動的に情報を発信できる。日々の活動や飯館関連情報を届け、花園への愛着や人のつながりを維持する。

#### ③リーフレット、花図鑑の作成

敷地内の地図や花の情報を集積し、花園の訪問者への情報発信に役立つ。

#### ④定点カメラの設置

一日一枚の写真を定刻に撮影し自動でインターネット上にアップする。いつでもどこでも誰でも花園の様子を確認できる。

### 定点カメラから見た花園の四季



# 04 施策により 得られた成果・考察

### #施策①の結果

花壇作りは、前述の大久保氏の想いを具現化することを第一目的に実行された。これにより得られた結果として、①大久保氏の家に花壇が完成、②いいはなと他団体との連携強化(ふくしま再生の会、までいラボ、フェリス女学院大学、福島大学)、③参加者の福島県内の現在の状況に対する興味醸成、の3つが挙げられる。また、上記以外の副次的な効果として、④新聞、テレビに取り上げられることによる広告効果、⑤大久保氏の心情、健康状態の変化(「以前よりもよいきいきとされている」との声)も挙げられる。

### #施策②の結果

飯館村の情報発信の手段の確保、来訪者との継続的なつながり確保を目的に活動が行われた。結果として、①いいはなの活動の記録、認知度向上(HP、Facebookのアクセス数の伸び)、②大久保氏の花園への訪問者数の増加、③現地での活動の幅の広がり、が挙げられる。しかし、この活動で最も重視すべき成果は、①情報化社会に対応するための仕組みの確立、そして②飯館村から様々な距離感にいる人に対してつながりをたやすく持ちうる手法の確立の2点である。

### #その他の考察

第一目的である大久保氏の願いの成否には、まだいくつかの課題が残るものの、上記の成果が得られたことから、彼の願いの実現に向けては確実な進捗があると思われる。また学生であることの強み(地域に活気を与えられる、大学という研究機関に近い専門家からの支援を受けやすい等)、学生が関わる意義についても、考察する必要がある。最後に、定点カメラなどのICTの意識、導入は今後我々の活動の幅を広げるという意味で大きな意味を持つとも考えられる。

# 05 今後の展望： 関連団体の連携強化

### #花園が抱える課題

およそ2年にわたる大久保氏といいはなの活動により、飯館花壇をシンボルとするマキバノハナゾノが整備され、広報活動も行われてきた。しかし、現在活動に関わっているメンバーの多くが遠方におり、マキバノハナゾノの日常的な管理は大久保さんが一手に担っている状況である。マキバノハナゾノの維持管理に関わる人材と資金の確保が課題となっている。同時に、大久保氏の自助努力による資金確保も本当の意味での“自立”のためには求められている。

### #今後の方針

これまでの活動はマキバノハナゾノに焦点をあてて実施してきた。しかし、飯館花壇が完成した今、飯館村全体に視野を広げ、マキバノハナゾノの存在を改めて捉えなおしていく必要があると考える。これまでにマキバノハナゾノの活動に関わってきたサポーターだけでなく、新たな訪問者とのつながりや村内の他の活動との協力関係を構築し、飯館村の復興に向けた取り組みの一端を担うと同時に、マキバノハナゾノの維持管理に必要なネットワークの構築を目指していく。

### 飯館村とその復興に関わる人々との連携強化

